

第29回国労東日本定期大会開催



発行所
国鉄労働組合長野地方本部
長野市中御所3-2-22
発行者 太田 克彦
編集者 鈴木 英人

2015年9月8日
第1511号

国労へ あなたの声が 仲間を変える

第29回となる国労東日本本部定期大会が、8月24・25日にラフレさいたまにおいて開催されました。最重要課題である組織拡大や労働条件向上、鉄道の安全・安定輸送や出向先会社の労働条件などさまざまな課題を議論しました。運動方針決定、ストライキ権確立、新役員を選出して2日間の日程を終えました。



新執行部選出 菊池新委員長挨拶

宮崎副委員長は開会挨拶として「今定期大会の課題は第1に組織・拡大をしてきたその教訓と成果を持ち寄り、その代議員の報告に全体が学び合い職場での実践に結びつけること。第2の課題は、先の第84回定期全国大会で確認された方針に基づき職場の労働条件改善の闘いに全力を挙げることに共に仲間の強固な団結を作り上げていくこと」と述べました。議長団として八郷代議員（東京）、金子代議員（東京）を選出。松井正義委員長より「①日本を戦争をする国にさせてはならない取り組みとして『戦争法案』廃棄の闘いを進める②JRの安全安定輸送の確立のため『職場・安全総点検』取り組みの強化をめざす③組織の強化・拡大と国労運動の継承と更なる発展④第84回全国大会で満場一致で採択された運動方針に基づき東日本本部が闘いの先頭に立つ」と

運動方針（案）提案 討論では25名が発言 東日本本部委員は 矢澤栄雄さんを選出

来賓挨拶と弁護団挨拶、経過報告のあと2015年度の運動方針（案）が提起され、討論となりました。▽山手・京浜東北での電化柱倒れは以前の対策が生かされていない。申を出した（神奈川）▽春闘はストライキで、貨物と旅客の格差は40ヶ月になる（仙台）▽駅の遠隔システムではお客への説明に時間がかかる。車イス・外国人には不便。十条駅では駅頭行動で延期となった（上野）▽北海道新幹線開通を控え、青森地区は出向・統合に不安を持っている（青森）▽千葉鉄道サービスが7月よりJESSとなったが、何の説明もない。団交を実現したい（千葉）▽「戦争法案」反対の先頭に立つ

との力強い挨拶がありました。

- 新しく選出された役員は次のとおり
- 執行委員長 菊池 忠志（水戸）
 - 執行副委員長 宮崎 浩則（東京）
 - 書記長 佐藤 正幸（長野）
 - 執行委員 伊藤 隆夫（東京）
武田 幸喜（仙台）
武笠 秀也（東京）
樋口 孝重（東京）
渡辺 信之（東京）

てほしい。協約締結で成果はない。破棄を（高崎）▽業務を直轄に戻していく闘いが必要。不当配転はまだ残っている。住宅の使用は期限をなくしてほしい（仙台）▽駅の無人化では防犯の問題に発展し、区議会・国会でも論議された。職場からの闘いの構築を（新橋）▽駅合理化は駅の規模を超えてされる。輸送障害や駅でのトラブルが日常的に発生しているが要員を減らしている（神奈川）▽『戦争法案』反対で地域の集会に参加した。8月30日の100万人集会に参加を。アスベスト手帳取得の準備中（秋田）▽放射線を浴びないための施策を会社に提案してきたい（水戸）

書記長集約をし 運動方針採択

長野は私（鈴木）と宮本代議員が発言。宮本代議員は信州ロジより2名

の拡大と南松本駅脱線原因の不具合が未だにされていないと発言。

佐藤書記長の集約のあと運動方針を承認、規約の一部改正では「青年・婦人部」の名称が「青年・女性部」と改正。ストライキ権が確立され、新役員が選出されました。「戦争法案廃案」の特別決議と大会宣言が採択され、閉会挨拶、団結カンパローで閉会となりました。

なお、東日本本部委員は矢澤栄雄代議員が選出され、機関紙最優秀賞は車両所支部「スクラム」、組織拡大標語は車両所支部・西沢千秋さんが入賞しました。



ずっと派遣だ、死ぬまで安く働け、あいつを追い出せ！ 安倍さん、そうやって世界で一番企業が活動しやすい 国にするのですか

「労働者派遣法の全面的自由化」 「労基法の改悪」 「解雇自由化」 を狙う労働法制改悪

七月四日、上田市勤労者福祉センターにおいて「労働者・労働運動が積み重ねてきた労働者保護ルール（規制）を徹底的に破壊する」と断言いたしました。その一つ目として「労働者派遣法の全面的自由化」です。これは生涯派遣という不安定雇用と低賃金労働者の増大につながり、安倍首相のいう「派遣労働者の待遇改善と正社員への道を開く」ことにはなりません。

今回、労働法制改悪と闘っている法律家である栗一郎弁護士は、大変画期的なものであります。以下、集会の内容を簡単に報告いたします。

栗一郎弁護士は、今回安倍政権が行おうとしている労働法制の改悪を一言で表



三つ目には「解雇自由化」です。お金さえ支払えば使用者は自由に労働者を解雇できることとなります。気に入らない労働者をお金を支払って会社から追い出すことが可能となる危険な法案です。

現在、日本は世界で三番目の長時間労働の国です。

労働時間では週60時間以上の労働が2、3ヶ月続くと、過労死と認定する基準に当てはまり、現在、過労死予備軍は479万人もいます。統計では過労死・過労うつは2年連続の増加、長時間労働や

気がつけば、働く者の権利どこえやら！

今回の労働法制の改悪案は、少子高齢化の社会の到来を見据え、労働人口の減少に対する対応策として、私たち労働者に低賃金で死ぬまで働けといっているのです。

その矛先は、年少者、女性、高齢者にまで触手を伸ばし、更に国の内外から奴隷制度として批判の多い外国人技能実習生を、安価な労働者としてまかなうことを平然と行っているばかりか、東京五輪における建設現場では、この制度を利用しようとしているのが実態です。



職場のストレスなどによる労災件数も過去最高を記録していることから、「安倍政権がまず最初に手をつけなければならぬのは、この状況を無くすことです」と力強く報告を締めくくりました。

更に大きな問題点を付け加えると、生活困窮者における中間就労や、障がいを持つ人の自立支援法による労働、高齢者においてはシルバー人材センターでの労働など、確実に労働しているにもかかわらず、労働災害補償などの社会補償がないままの環境で働かせています。

私たちは、上記のような労働政策全般に注目するとともに、労働者としての尊厳を勝ち取るために、労働法制改悪を許さず、また暴走する安倍政権を倒すために、力を合わせて闘わなくてはならないと思います。

一人の犠牲者を出さないために、皆で一歩前に出て行動していきましょうか！

報告：高橋 徹

長野空襲慰霊碑に献花 8月13日にこだわって

長野総合車両センター北基地内に、長野空襲で亡くなった国鉄職員8名の慰霊碑があります。この慰霊碑はもともと長野機関区に建立されていて、平成2年11月に現在の場所に移転されたものです。自然石に銅板がはめ込まれ善光寺智栄上人の筆で文字が入っており、裏に殉職された8名の名前が刻まれています。そのうち3名は10代の青年です。

犠牲者は46名という記録が残されています。

長野市は、太平洋戦争勃発以来敗戦末期まで空襲を受けたことはありませんでした。ところが敗戦わずか2日前の13日の未明から長野飛行場、大豆島小学校、国鉄長野機関区、国立長野療養所、若穂のしなのかわだ駅など終日機銃掃射・rocket弾などの攻撃を受け、

車両所支部では空襲を受けた8月13日にこだわって、お盆休みではありませんが、毎年慰霊碑に献花をしています。今年は戦後70年という節目の年でもあり、職場近くの人に集まってもらおうと呼びかけたところ14名が集まり、献花と黙祷を行いました。



現在、「戦争法案」が参議院で審議されています。この危険な動きを察知してか、今年はいつにも増して反戦のドラマが多いように思います。私たちは「二度と戦争を起ささない」ことを胸に誓いながら、「戦争法案」を廃案にするためのさまざまな行動に参加していきたいと思っております。